

市民懇談会での話し合い内容〈経過報告〉 ～ 塩竈市の現状・課題の共通認識～

活力づくり分科会

活力づくり分科会では、地域の持つ資源（良いところ）、地域の抱える問題点についての意見交換を行い、塩竈市の活力づくりに必要なことについて話し合いました。

そこで出された意見としては大きく「塩竈市の気候・地形・立地特性」、「塩竈市の海」、「塩竈市のまち」、「塩竈市の人・暮らし」、「塩竈市の観光」となり、それぞれについて話し合いました。

塩竈市は、海に近く、浦戸諸島など素晴らしい資源を有しており、温暖な気候の中で四季折々の自然に触られる素晴らしい自然環境を有している事。仙台と松島の間であり、市内に駅が4つもあるなど交通利便性の高い地域である事など素晴らしい地理的特性を有しているとの共通認識がありました。

そうした環境の中、「塩竈の海」では「海の幸、それらを活かした食のまち」としての位置づけ、豊かな海産物の恵みを受け、食卓にも地域の産業である仲卸市場や水産加工業へも、様々な恩恵をもたらすなど、地域の宝となっているとの意見が出されました。一方で「水揚げ量の減少」など近年の問題点についての意見が出されました。また塩竈の港は「東北唯一の特定重要港湾」に指定されており、「漁港・港湾・観光港の3つの機能を有した港」であることや、「物流面での有利な立地性」や「駅から近い」といった良い面の意見が出されました。一方、「港の老朽化」や、「船舶の出入りが少なくなっている」こと、また「せっかくの素晴らしい資源を生かし切れていない。」との意見も寄せられました。

「塩竈市のまち」

- ・歴史性やそこで培われた文化、また高台から海への眺望や風景のすばらしさ
 - ・「発展期に古いものを壊してしまった。」ことや、「シャッター街」や「チェーン店ではない個性的な店舗が少ない」など、商店街の抱える問題
 - ・「浦戸諸島の良さを市民が知らない。」など
- 浦戸諸島の問題も話し合われ、良いところが有る反面様々な問題を抱えることが分かりました。

「塩竈市の人・暮らし」

- ・塩竈市民の人間性や、地域コミュニティの良さ
- ・「若者の減少」や「若者が集まる場所がない。」など「まちの高齢化」が課題
- ・生活環境としては「病院が多い」など充実。
- ・地形的な問題から「坂道が多く、道路も脆弱」

「塩竈市の観光」

- ・様々な観光資源を有するも「観光PRが不足している」など情報発信、「観光客に対する案内や、交通が不十分」
- ・「宿泊施設がない」「お土産や、料理を提供する店が少ない。」など、滞在して楽しんで頂ける環境づくりの面で課題

活力づくり分科会では、今後「地域産業の活性化」という視点に立ち、これまでの話し合いをもとに、活力づくりのための方向性を議論していきます。

うるおいづくり分科会

うるおいづくり分科会では、大きく「地元学」「コミュニティー」「街なか」「次世代」「一森山」「グルメ」「浦戸」という項目で整理しました。

「地元学」

- ・「塩竈市の広報やHPは分かりやすくして良い」
- ・「地域住民が塩竈市の事をよく知らない」という課題
- ・「市内を地区単位でみたときに“限界集落”になりつつある地区もある」
- ・「人口減少を止めるような方策を考えなければいけない。」

「コミュニティー」

- ・町内会をはじめ隣人とのコミュニケーションの重要性
- ・様々な活動を行っている団体間の連携についての課題

「街なか」

- ・「街なかの景観が良くなった」「都市インフラ整備（交通、水道、下水 等）が進んでいる」
- ・「坂が多く、道も悪い」という地形的な問題や「大人数が集まれる場所（ホール等）がない」

「一森山」

- ・塩竈市の象徴としてのご意見も多く、日常的にも様々な場面で訪れており、一人一人が色々な「自分の好きなシーン」を持っている
- ・鳩の問題や維持管理など細部に至る問題点も指摘など関心の高さ

「グルメ」

- ・「魚のまち：塩竈」が活かされてない。」などの指摘
- ・それらを活かしたまちづくり展開についての意見

「浦戸」

- ・「昔はキャンプをしたりよく行った。」という意見も多くだされ、市民の島との関わり方の変化
- ・浦戸諸島の自然のすばらしさについては共通の意見

今回出された、資源や問題点を踏まえ、今後「うるおいあるまち」を創り上げるために必要なことについて議論を深めていきたいと考えています。

ふくしづくり分科会

ふくしづくり分科会では、分野毎に話し合いを進め、それぞれの抱える課題について話し合いました。

これからの塩竈のまちづくりにおいては、教育や福祉といった分野は特に重要になっていくという、ご意見の中、「福祉のまちづくり条例」等の制定を行い、「塩竈市独自の“福祉”に対する考え方を明確にしていく必要がある。」とのご意見をいただきました。特に“予防”分野での塩竈市の先進性や、独自性、また地域コミュニティーの力は「地域の資源」であるため、それらをもっと磨いていく必要があるとの意見があげられています。

「障害者福祉」

- ・「親なき後の障害者介護」が大きな問題
- ・現状の家庭内介護の限界についての意見
- ・「“地域”全体での支援」の必要性やその推進方法、
- ・「障害者を見守る地域のあり方」についての意見
- ・施設介護においても、現状では重度障害をもつ方へのケアができる施設がないこと
- ・利用者の経済的な負担、またサービス提供者の設備更新上の課題など
- ・障害者自立支援法の改正に伴い、利用者がサービス提供者を選択出来るようになったものの、塩竈市の現状では需給バランスが需要過多
- ・サービスの質を確保するために「適正な事業者の評価」を行う必要性
- ・「幼児保育」のおける人付き合いや集団生活の場で配慮の必要な子どもが増えてきており「ひまわり園」など相談のできる場所の重要性や家庭へのケアの必要性
- ・障害者の社会参画についても、民間企業への就労が進んでない
- ・精神障害者の方を就労する上での現実的な問題や課題
- ・障害者に就労の場を提供していくかについて意見交換を行いました。
- ・サービス提供者側の課題としても、ヘルパー人材の確保の課題
- ・利用者だけでなく提供者の課題について意見も出されました。

「母子福祉」

- ・塩竈市の取り組みへの高い評価（待機児童がほぼゼロ等）
- ・少子化の進展とは関係なく、保育所の需要は年々高まっていることから、保育サービスの充実や子育て支援体制の充実について
- ・民間の保育所では運営上の負担が大きく、優秀な保育士の方が長く続けにくい環境にある
- ・公立の保育所の重要性や、公立保育所の役割や意義について議論していく必要性な

「高齢者福祉」

- ・「地域で支える仕組みづくり」など、障害者福祉で抱えるものと共通の問題や課題
- ・介護予防の面では、現状の塩竈市の取り組みは先進であるので、もっともっと充実していき「介護が必要な高齢者を少なくする。」「元気な高齢者を増やす。」ことの重要性
- ・日常のちょっとした支援や、地域での見守りなど、普段の生活の中での高齢者との関わりによって少しずつ支える仕組みを作ることが必要

「地域医療」

- ・市民病院の役割や位置づけ、民間病院との連携による地域医療体制のあり方
- ・医療と福祉をつなぐ役割を市民病院が担うべきではとの意見

ひとづくり分科会

ひとづくり分科会では、現状かかえる問題点や、塩竈市の良いところについての意見交換を行い、課題点の抽出を行いました。主な内容としては「情報発信の方法」や「地域活動」、「子どもの地域社会とのつながり」についての話し合いがなされました。

「情報発信の方法」

- ・さまざまな媒体でいろいろな情報が発信されているものの、必要な情報が何処に行けば手にはいるのかが分かりにくくなっている
- ・「情報の一元化を行うと、情報過多になり逆に伝わりにくい。」や「受け取り手に応じて、必要な情報を発信するのが良いのでは。」といった意見
- ・「何を発信するのか」「どのように伝えるのか」について様々な意見
- ・近所付き合いが密接な頃は、人から人へ必要な情報が伝わっていたという事も出され、町内会や回覧板の有効性や、テレビ・ラジオ等の活用について意見が出されました。

「地域活動」

- ・“市民ミュージカル”や“よしこの塩竈”“塩竈甚句”など、様々な地域活動が見られる
- ・“よしこの塩竈”“塩竈甚句”によって地域の一体性が生まれた」「祭りの時の一体感。」という地域活動の良い面への意見
- ・“よしこ”も自主性が大きく、PTA単位での取り組みにとどまっている。」や、「活動団体間の連携」、特に「20～40代の住民の地域活動への参画の低さ」「サラリーマンがアフター5に活動に参加できる方法」などが課題
- ・地域活動を支える施設として「エスポ」への評価や、公共施設への意見が出され、「体育館運営が指定管理者になり活用しやすくなった。」など公共施設の活用方策に

「子ども達の地域社会とのつながり」につい

- ・「子ども夢会議」「何でも体感団」など、様々な良い取り組みがされている
- ・「子ども達に郷土史を伝える必要性」「小学校の先生が市外に住んでおり、市のことをよく知らない。」「高校への進学を機に接点が薄くなってしまう」などの問題点
- ・「塩竈ぼんぼん」などの活動の推進、ユナイテッドチルドレンの活動紹介などを元に、様々な意見が出されました。

「ちょうど良い大きさと、住みよい」

- ・塩竈を「産業だけでなく、自信を持って誇れるまち」にしていくため、今後もひとづくりの面で議論を深めていきたいと思えます。

みらいづくり分科会

みらいづくり分科会では、自分たちの普段の生活から「塩竈市の良いところ」「塩竈市の悪いところ」について、率直に意見交換を行いました。

「塩竈市の悪いところ」

- ・道路などの交通面で「歩道が狭い」「複雑な道がある」「歩道の段差が激しい」「狭くて自転車とぶつかりそうになる」「曲がると急に車に出くわすような道が多い」「変な臭いがする場所がある」「バス代が高い」など、歩行者の視点で問題が多い
- ・まちなかの問題として「映画館がない」「スポーツ用品店がない」など「若者向けのお店がない」事や、「商店街が入りにくい」「お店の紹介がなく分からない」「お店が暗い」など、入りにくい雰囲気がある

「塩竈市の良いところ」

- ・塩竈神社についての意見が多く出され「階段が有名」「桜が綺麗」など塩竈神社への愛着
- ・港についての意見も多く出され「海」への愛着の高さも伺われました。
- ・交通面でも「駅が多く、快速が止まる駅が2つもある。」や「高速道路にも近く車での移動が便利。」など利便性の高い地域との意見も多く出されました。
- ・まちなかの話では、それぞれにおすすめのお店があるなど、「良いお店（美味しいお店）が多い。」などの意見
- ・「みなと祭りが賑わう」など塩竈市のもつ歴史・文化や、日常のあいさつなど「人のすばらしさ」について多くの意見が出されました。